

ペトリコール  
伊藤ます美

東山（画家）  
寺田（画商）  
マヤ（東山の娘）

——東山のアトリエ——

タバコをくわえながらコーヒーを淹れる東山  
ピンポン チャイムをならして寺田が入ってくる

東山 休日なのに悪いな……。

寺田 いや……画商に休日なんてないさ。それよりどうした？ お前から呼び出すなんて。

東山 たのみがある。

寺田 たのみ？

東山 ここにある絵を、全部売ってくれ。

寺田 全部？

東山 あぁ全部だ。

寺田 アトリエの絵を見て歩く

寺田 お前、最近描いてないだろ？

東山 もう、画家はやめようと思ってる。

寺田 画家をやめる？ お前が画家をやめて他に何ができるって言うんだ？

東山 何だってやるさ。売れない絵を描いている時間はない……。

寺田 いったい何があった？

東山 重ねた絵の中から一枚取り出す

東山 おい！ これは売れるんじゃないか？ 第三回ビエンナーレ優秀賞受賞作品だ。

寺田 無理だな……だいたいビエンナーレは今年で何回目だと思ってるんだ。三十五回目だぞ。あれから三十二年も過ぎたんだ。過去の栄光だな。

東山 過去の栄光……か……。

東山 アトリエの窓を開け庭あじさいを見る

寺田 奥さん出てっから何年になる。

東山 十年だ。

寺田 十年か……まやちゃん元気か？

東山 もう何年も会ってないよ。

寺田 そうか……もう大人になってるなきつと。

東山 今年二十歳（はたち）だ。

寺田 ほう……東京の大学行ったんじゃないか？

東山 今は京子の実家で暮らしてる。

東山 声をつまらせる

寺田 京子さん病気で出したのか？

東山 いや、まやだ。

寺田 えつまやちゃんが？

東山 末期のがんなんだ。

寺田 がん？

東山 ああ……あと何ヶ月生きれるかわからないって京子が電話してきた。

寺田 そんな……まやちゃんまだ二十歳だろ？ 何か方法はないのか。

東山 今年中に手術をすれば、生きのびる可能性は二〇%

寺田 二〇%って……。

東山 でも、手術代が三百万かかる。

寺田 三百万？

東山 ああ……。

寺田 どうする気だ。

東山 一%でも可能性があるなら手術をうけさせてあげたいよ。

寺田 そりゃそうだな……。

寺田 ほりりがかぶった絵をみてため息をつく

アトリエを見回して思いつく

寺田 そうだ！ 三百万だ！ 今年のビエンナーレの賞金は三百万だ！ まだ間に合う！

締め切りは来月だ！

東山！ もう一度描かないか……まやちゃんのためにも……。

東山 ちらかったアトリエをながめる

東山 無理だよ。もう俺は描けない。まして賞をとるなんて……

寺田 1%の可能性にでもかけるんじゃないのか？

東山 それと、これとは……とにかくここにある絵を一円でも高く売ってくれ！ あとは毎日働いて……

寺田 働く？ 甘いな……絵しか描いたことがないようなお前に仕事なんかあるわけないだろ！

東山 ならどうしろと言うんだ……このまままやが死んでいくのをだまって見てると言うのか！ 俺はいつたい今まで何をして来たんだ。

泣き崩れる東山

布のかかった大きな絵を見つける寺田

寺田 おい！ この絵はなんだ？ 描きかけか？

東山 ああそれは完成してない……売らないでくれ……。

寺田 ほう……きれいなあじさいだな。横に誰か描くつもりだったのか？

東山 ……。

寺田 未完成の絵か……そうだ！ いい考えがある！

寺田 自分の車から一枚の絵を持ってくる

寺田 見ろ！ これは去年亡くなった遠山郁夫の絵だ！

東山 なんだって？ 描きかけじゃないか。

寺田 ああ、亡くなる前はかなり認知症が進んで、わけのわからない絵を描いてたらしいよ。

奥さんが、何かに使えるかもしれないからって俺にくれたんだ！

東山 これをどうすると言うんだ。

寺田 お前が完成させるんだ！

東山 なんだと？

寺田 遠山郁夫の絵だと気づかれないように。

東山 そっそれは、画家として

寺田 今さら何を言ってるんだ。画家はやめるんだろ！ これを完成させて、ビエンナーレに出品すれば、入賞まちがいなしだ！

東山 しっしかし犯罪だろ！ いくら未完成の絵でも……。

寺田 そうだ犯罪だ！ それが、なんだ、まやちゃんの命には替えられないだろ！

東山 ……。

寺田 べ切は来月だ。急がないと間に合わなくなる！ 出来たら連絡くれ。それじゃあ。

寺田は足早にアトリエを出る

絵の前で呆然と立ち続ける東山

何度もキャンパスに向かおうとするが、描き出す事が出来ない

ピンポン チャイムが鳴ると、まやが入って来る

まや お父さん！ 久しぶり！

東山 まつ、まや！ お前！

まや 元気してた？

東山 あ、ああ。なんとか……

まや ちゃんと食べてる？

東山 ああ……なんとか……

まや 自分で作ってるの。

東山 あー、でも料理はあまり得意じゃないから。

まや ホント！ 何か作る台所じゃないわね。コーヒー淹れようか？

東山 コーヒーなら、父さんが……いやコーヒー淹れるのは得意なんだ。

まや そうね。父さんは、絵を描いてる姿とコーヒーを淹れてる姿しか見たことがなかった……。

東山 あっあの頃は……父さん忙しくて……。あ——母さんは元気か？

まや うん……あいかわらず朝から忙しくしてる……まあ最近は年のせいか、あちこち調

子が悪いようだけど……。

東山 そうか……父さんこんなだから、何もしてあげられなくて……。

まや 何言ってるの。そんな話ししに来たんじゃないわ。

東山 何かあったのか？

まや たのみにあるの！

東山 たのみ？

まや そう……

東山 父さんに出来ることがあるなら……。

まや 父さんしか出来ない事。

東山 えっ？

まや 私の絵を描いてほしいの

東山 あっああ！ そうか、そうだな……。

まや 庭に出る

まや 今年も咲いているのね！ あじさい……

東山 毎年咲くよ。

まや 私が生まれた時に植えたんでしょ？

東山 暑い夏だったな……

東山 アトリエの奥から描きかけのあじさいの絵を持って来る

まや 父さん、これって。

東山 ああ、まやの誕生日にプレゼントしよう……

まや 母さんが倒れた夏の……

東山 まや、父さんあの頃、名前も売れて、描けば描く程売れて……思いあがってたんだ……

……だから、お前の気持ちも、母さんの体調も……。

まや 父さん！ らしくないわねえ！ 私は、もう二十歳よ。母さんだってあの時のことは、もう……。

東山 でつ、でも、母さんが倒れたのを、寺田が、見つけてくれなかったら、母さんは、生きてなかったかもしれない。なのに……父さんは、病院に行かずに絵の授賞式に行ったんだ……あの時の……

まや 父さんの絵が悪いんだ！ 父さんの絵のせいで、お母さんが、倒れたんだって……覚えてる……ふでを何本も父さんになげつけて……。

東山 まや……ほんとうに……

まや いまさら、あやまる？ 今頃？

まや 東山をのぞき込む

まや 許してあげるかわりに、私の絵を描きあげて……。

庭のあじさいの横に立つまや

描き始める東山

突然風がふくと強い雨が降り出す

東山 スクールか……ちよっと休けいだ。ぬれるぞ！ 中へ早く！

アトリエの中からタオルを持って来る東山

まやの姿はない

雨あがり。

石だたみを涼しい風が通り過ぎる